

現代中国語の特定疑問文の意味と論理¹⁾

胡 杰

要旨

本研究では、命題論理と述語論理を用いた論理式²⁾によって特定疑問文の意味を詳細に論じる。第一章では、朱德熙(1982)に基づき、特定疑問文の産出プロセスを仮定する。第二章では、疑問代詞“怎么”を含む特定疑問文の分類について論ずる。第三章では、特定疑問文に生起する“怎么”の意味を分析する。第四章では、第三章で議論した“怎么”の意味を基に、“怎么”を含む特定疑問文の論理構造を明示化して、特定疑問文の産出プロセスを明らかにする。

キーワード: 命題論理 述語論理 特定疑問文 論理式²⁾

0. はじめに

本稿は朱德熙(1982)の見解を基に、形式意味論の観点から、“怎么”という疑問代詞を含む特定疑問文を中心に、その意味を詳細に論じる。本稿で採用した特定疑問文の意味解釈は朱德熙(1982)に基づいているが、本稿でなされる意味分析の過程の明示化や論理構造へのアプローチは朱德熙(1982)には見られないものである。

1. 特定疑問文の産出プロセス

朱德熙(1982)は、「対応する平叙文に疑問詞を代入し、疑問イントネーションを加えると特定疑問文に変わる。特定疑問文の後に語気助詞“呢,啊”

を加えることができるが、“吗”を加えることはできない。例えば、
他昨天上广州开会去了。→谁昨天上广州开会去了（啊）？

（昨日、誰が広州へ会議に参加しに行きましたか？）

→他什么时候上广州开会去了（啊）？

（彼はいつ広州へ会議に参加しに行きましたか？）

→他昨天上哪儿开会去了（呢）？

（昨日、彼はどこへ会議に参加しに行きましたか？）

→他昨天上广州干嘛去了（呢）？

（昨日、彼は広州へ何をしに行きましたか？）」

と述べている。

以上の朱德熙(1982)の記述から、特定疑問文の成り立ちとしては、まず、特定疑問文に対応する平叙文の存在が求められる。次に、対応する平叙文から特定疑問文が派生するまでには、疑問代詞の代入と疑問イントネーションを加えるといったプロセスを経なければならない。総じて、対応する平叙文から特定疑問文が派生するまでには

- ①対応する平叙文が存在する。
 - ②疑問詞を代入する。
 - ③疑問イントネーションを加えることで特定疑問文が出来上がる。
- という三つのステップが必要となると推測できる。

しかし、実際に会話の中では特定疑問文として用いられる文は必ず疑問イントネーションが加えられているわけではない。ということは、疑問イントネーションは特定疑問文の中では、必須要素ではないことがわかる。したがって、対応する平叙文から特定疑問文が派生するまでには、まず、「対応する平叙文が存在する」。次に、「疑問代詞を代入する」。といった二つのステップが用いられると考えられる。本稿では、この特定疑問文の産出プロセスを頼りに、“怎么”を含む特定疑問文の具体的な用例を詳しく分析することにする。

具体例を分析する前に、まず、“怎么”を含む特定疑問文の分類と特定疑問文にある“怎么”の意味について確認しておこう。

2. “怎么”を含む特定疑問文の分類

邵敬敏(2014)は、「怎么」は特定疑問文の中で、主に状況語として使われる。文頭に生起する場合と文中に生起する場合がある。文頭に生起する場合は“怎么+NP+VP?”と表し、文中に生起する場合は“NP+怎么+VP?”と表すことができる。尚、NPは文脈により、省略する場合もあり、“怎么+VP?”と表すことができる。

また、“怎么+NP+VP?”という形式は原因を尋ねる時にのみ使われるが、“NP+怎么+VP?”と“怎么+VP?”の場合は原因を尋ねる以外、方式(方法)を尋ねる時にも用いることができる」と述べている。

これに対して、『現代汉语八百词』は、疑問代詞の“怎么”を三種類に分けている。

まず、“怎么+動詞”という形式で、方式を尋ねる。

次に、“怎么+動詞/形容詞”という形式で、原因を尋ねる。

そして、“怎么[+一]+量+名詞”という形で、性質(性状)を尋ねる。

さらに、『現代漢日辞海』は、疑問代詞“怎么”について、以下のように述べている。

1. どう。どのように。“怎么”+動詞の形で用い、方法を問う。
2. なぜ。どうして。“怎么”+動詞または形容詞の形で用い、原因・理由を問う。
3. どんな。どういう。“怎么(+一)”+量詞+名詞の形で用い、性質や状況を問う。

本稿では、以上の分類を参考にして、“怎么”を含む特定疑問文を「原因・理由」を問う文、「方式・方法」を問う文と「性質・状況」を問う文に分け、議論を進めることにする。

3. “怎么”の意味について

最初に、「原因・理由」を問う文から見てみよう。

- (1) 小曲：呦，小邱，怎么才回来呀？大晚上的，女孩子家家的多不安全啊？

(あら、邱ちゃん、なんでこんなに遅く帰ってきたの？夜遅くまで(外にいる)女の子は危ないよ？)

小邱：有人送我回来。

((お友達)に(家まで)送ってもらった。)

(テレビドラマ《欢乐颂》第四話)

“小曲”と“小邱”は近所である。夜遅く帰ってきた“小邱”に対し、“小曲”はその“原因”を問うため、“呦，小邱，怎么才回来呀？”を用い、質問をした。

ここで、例文(1)の中で[原因]を問うための“怎么”について考えてみよう。夜遅く家に帰ることには様々な原因が存在する。例えば、「残業したから帰ってくるのが遅かった」、「お友達と飲みに行ったから帰ってくるのが遅かった」など、その[原因]の数は無限であると考えられる。さらに、なぜ出来事が起こった[原因]を聞けるのか、それは、客観的に様々な[原因]がすでに存在しているから、その[原因]を問うことができるのである。

例文(1)の場合は、“小曲”にとっては、“小邱”が帰ってくるのが遅い[原因]は自分の認知範囲の中で無限であり、選択疑問文のように、その[原因]を選択項目として一つ一つ並べることができない。そこで、特定疑問文では“怎么”を用い、[原因]を聞くことにした。ということは、“怎么”は実際には、例文(1)の中で「[原因]の集合」であると理解しうる。[原因]の集合を表す“怎么”を論理式で表すと以下ようになる。

(2) $\lambda x \{ \text{怎么}'(x) \} (\phi)$

論理式(2)は[原因]の集合(怎么')を表している。 λ 式の x は具体的な[原因](即ち、質問者が求めている答え)が占めるべき位置を指定している。 (ϕ) は命題(平叙文)を表す。特定疑問文の中では λ 式は未知である。

次に文中で方法を問う“怎么”について考えよう。

(3) 他怎么学会说广州话的? (吕叔湘主编 1999:651)

(彼はどうやって広東語を習得したのですか?)

例文(3)は“彼”が広東語を習得した「[方式・方法]について問う文」である。周知のように、一つの言語の習得には様々な[方式・方法]が存在している。例えば、外国語の本を購入し、独学で勉強する[方式・方法]、外国語専門学校で勉強する[方式・方法]、留学し、現地で勉強する[方式・方法]等々がある。その具体的な[方式・方法]を選択疑問文のように選択項目として挙げることはできない。そこで、その列挙できない[方式・方法]を表すため、特定疑問文の中で、“怎么”を用いた。故に、“怎么”はそのあらゆる「[方式・方法]の集合」であると考えられる。そして、その「[方式・方法]の集合」を表す“怎么”を論理式で表すと以下のようになる。

(4) $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)$

論理式(4)は[方式・方法]の集合(怎么')を表している。 λ 式の x は論理式(2)の λ 式の x と同様、具体的な[方式・方法](即ち、質問者が求めている答え)が占めるべき位置を指定している。 (ϕ) は命題(平叙文)を表す。特定疑問文の中では λ 式は未知である。

さらに、性質や状況を問う“怎么”について考えてみることにする。まず、文の中で状況を問う“怎么”を論ずる。

(5) 夏冬海: 那旷课是怎么回事?

(授業をさぼったとはどういうこと?)

小雪: 不就是少上一节自习课吗? 我那个呀, 是去参加一个生物夏令营的入营仪式。

(自習に行かなかっただけじゃん? だって、生物をテーマとする夏キャンプの開幕式に参加しなかったから)

(テレビドラマ《家有儿女》第一部 第七話)

“夏冬海”は“小雪”の父である。“小雪”は普段、優等生であり、“夏冬海”にとっては、自分の娘が授業をさぼることはとても信じられないことである。自分の優秀な娘に授業をさぼらせる位の[状況]はどういう[状況]なのかを知りたく、“那旷课是怎么回事？”という質問をした。優等生に授業をさぼらせる[状況]は「道に迷った子供を助けるのに時間がかかったため、授業に参加できなかった」や「図書館で本に夢中になりすぎて、つい授業の時間を忘れてしまった」等、たくさん挙げられる。ということは例文(5)の“怎么”は前文で述べた[原因・理由]と[方式・方法]を表す“怎么”と同様に、「[状況]の集合」と見なすことができる。そこで、例文(5)の“怎么”は以下のような論理式で表すことができる。

$$(6) \lambda x \{ \text{怎么}'(x) \} (\phi)$$

論理式(6)は[状況]の集合(怎么')を表している。 λ 式の x は論理式(2)の λ 式の x と同様、具体的な[状況](即ち、質問者が求める答え)が占めるべき位置を指定している。 (ϕ) は命題(平叙文)を表す。特定疑問文の中では λ 式は未知である。

次に、文の中で性質を問う“怎么”を論じてみたい。

(7) 他是怎么一个人？

(彼はどういう人ですか？)

例文(7)は彼の[性質]について聞いている。人の[性質]と言え、外向的であったり、内向的であったり、真面目であったりなど挙げきれない程ある。故に、例文(7)の“怎么”も人の「[性質]の集合」であると考えられる。例文(7)で「[性質]の集合」を表す“怎么”を論理式で表すと以下のようになる。

(8) $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)$

論理式(8)は人の[性質]の集合(怎么')を表している。 λ 式の x は論理式(2)の λ 式の x と同様、人の[性質](即ち、質問者が求める答え)が占めるべき位置を指定している。 (ϕ) は命題(平叙文)を表す。特定疑問文の中では λ 式は未知である。

4. 疑問代詞“怎么”を用いる特定疑問文の論理構造

前文で述べたように、特定疑問文の産出プロセスはまず、対応する平叙文が存在する。次に、疑問代詞を代入することによって特定疑問文が出来上がる。といった二つのステップを必要とする。本章では、この産出プロセスに従い、疑問代詞“怎么”を用いる特定疑問文の論理構造を詳しく分析する。

4.1 原因・理由を問う文

(9) 你怎么来了? (吕叔湘主编 1999:651)

(あなたはどうして来たの?)

(9)は「あなたが来た原因」を尋ねている。前文で述べたように特定疑問文を作り出すためにはまず対応する平叙文の存在を確認する必要がある。

(9)に含まれている平叙文を抽出すると、“你来了。”になる。この平叙文は(9)の前提とも言える。論理式で表すと、以下のように書くことができる。

(10) 来' (你) & 有' [来' (你), 了]

来ル ~ガ シテイル ~ガ [完了]

(10)は“来' (你)”が「あなたが来る」という意味を表し、“有' [来' (你), 了]”が「あなたが来るのが[完了]している」という意味を表している。

式全体は「あなたが来る、かつあなたが来ることが[完了]している」と読む。

次に、“怎么”を導入することで特定疑問文、即ち、(9)が出来上がる。“怎么”は“どうして”という意味を表し、「あなたが来た」原因について尋ねる。しかし、論理的に考えると、その「原因」を問う前に、来る筈がないあなたが(ここまで)来たということには必ず何らの原因がある。つまり、「何らかの[原因]があって、あなたが(ここに)来た」という意識は特定疑問文に反映されないが、暗示的に質問者の潜在意識の中にすでに存在しているということである。この潜在意識が存在していることを契機に、「あなたが(ここまで)来た」具体的な[原因]を問うため、“怎么”が導入されたと考えられる。この潜在意識を論理式で表すと、以下のようになる。

(11) 有' [有' {来' (你), 了}, [原因]]³⁾

アル ~ニ ~ガ

この論理式は「あなたが来ることが[完了]していることに論理形式[原因]がある」と読む。

そして、その[原因]を問うために、特定疑問文の中で、“怎么”が用いられる。ここの“怎么”は前文で述べたように、[原因]の集合である。論理式で表すと以下のように書くことができる。

(12) 有' [[原因], λx {怎么' (x)}](\phi)

アル ~ハ ~デ

この論理式は「その[原因]は[原因]の集合の要素である」と読む。

ここから、特定疑問文を仕上げるが、“怎么”を導入することで、“怎么”が表す[原因]の集合という意味を明示的に示すと同時に、平叙文に「疑問」の意味が加えられる。つまり、(9)に含まれている“怎么”は[原因]の集合という意味を表す以外、疑問の意味もあるということである。“怎么”の

“疑問”の意味を論理式で表すと以下ようになる。

(13) 怎么’ [我, 你, ~]

尋ネル ~ガ ~ニ~ニツイテ

(13)の論理式は「私が、あなたに、~について尋ねる」という意味を示している。“我”は質問者を表し、“你”は回答者を表す。この論理構造は“怎么”を含む特定疑問文の基本的な論理構造であると考えられる。

最後に、論理式(10)、(11)と(12)を連言(&)で繋ぎ、その連言で繋いだ複合命題に“怎么”を含む特定疑問文の基本的な論理構造を付与すると、例文(9)論理構造を表す論理式は以下のように書くことができる。

(14) 怎么’₁[我, 你, 来’ (你)&有’ {来’ (你), 了}&有’ [有’ {来’ (你),

尋ネル ~ガ ~ニ ~ニツイテ

了}, [原因]]&有’ [[原因], $\lambda x\{\text{怎么’}(x)\}(\phi)]_1$]⁴

論理式(14)は「私が、あなたに、あなたが来る、かつあなたが来ることが[完了]している、かつあなたが来ることが[完了]していることに論理形式[原因]がある、かつその[原因]は[原因]の集合の要素であることについて尋ねる」と読む。

もう一つの例を見てみよう。

(15) 金波：怎么就不合适了？

(どうして合わないの?)

朱婭娜：你不觉得咱们的开始有点尴尬。

(私たちの初めての出会いはちょっと気まずくなかった?)

(テレビドラマ《愛情万万岁》第八話)

ここの考察対象は“怎么就不合适了?”であるが、便宜を図って“怎么就不合适了?”を“怎么不合适?”という命題表現に変換して考察を進めることにする。

例文(15)で“朱婭娜”に告白した“金波”が“朱婭娜”に断われた直後に、その原因を問うための会話である。

例文(15)を詳しく分析するために、まず特定疑問文の前提と言われる平叙文を確認しなければならない。“怎么不合适?”に含まれている平叙文を抽出すると、“我们不合适。”になる。この平叙文を論理式で表すと、以下のようなになる。

(16)「合适」(我们)

ナイ合ウ ～ガ

論理式(16)は「私たちが合わない」と読む。

次に、前文で述べたように、“金波”が“朱婭娜”に原因を問う前に、自分が“朱婭娜”に断られたことには必ず何らかの[原因]があるという潜在意識が暗示的に存在している。この潜在意識を論理式で表すと以下のようなになる。

(17)有「合适」(我们)&[原因]

アル ～ニ ～ガ

この論理式は「私たちが合わないことに論理形式[原因]がある」と読む。

尚、この潜在意識に存在する[原因]を特定疑問文で明示的に表すために、“怎么”を導入することにする。ここの“怎么”は前文で記述したように、実際には[原因]の集合である。論理式で表すと以下のように書くことができる。

文に疑問代詞“怎么”を代入する動機あるいは契機があるということがわかる。つまり、予想外の出来事が発生したということは必ず何等かの[原因]があるという潜在意識が、質問者の中にはすでに存在している。この潜在意識が存在していることで、その具体的な[原因]を問うために、“怎么”が導入されたと考える。

従って、原因・理由を問う“怎么”を含む特定疑問文を産出するには、実際には以下のように三つのステップが必要となる。

まず一つは、対応する平叙文が存在することである。

次は、潜在意識の存在することである。

最後に、疑問代詞“怎么”を代入することで特定疑問文が仕上がる。

念のため、もう一つの例を見てみよう。

(21) 鲁大海 怎么少两块? (邵敬敏 2014:112)

(どうして二元足りないの?)

この文は“二元”足りない理由を聞いている。原因を問う“怎么”を含む特定疑問文の産出プロセス通り、まず例文(21)に含まれている平叙文を抽出する。その前提となる平叙文は“少两块”であることがわかる。論理式で表すと、以下のようなになる。

(22) 少' [φ, 两块]

足リナイ～ニ ～ガ

この論理式は「φに、二元が足りない」と読む。

そして、「二元が足りないということが発生した」ということには何等かの[原因]があるという潜在意識が存在する。論理式で表すと以下のようなになる。

(23) 有' [少' (ϕ , 两块), [原因]]

アル ~ニ ~ガ

この論理式は「 ϕ に二元が足りないということに論理形式[原因]がある」と読む。

その[原因]を表すために、“怎么”を導入する。論理式で表すと、以下のようになる。

(24) 有' [[原因], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)]$

アル ~ハ ~デ

論理式(24)は「その[原因]は[原因]の集合の要素である。」と読む。

“怎么”は特定疑問文の中で「疑問」の意味も表すので、その「疑問」の意味を論理式で表すと、以下のようになる。

(25))怎么' [我, 你, ~]

尋ネル ~ガ ~ニ~ニツイテ

この論理式は「私が、あなたに、~について尋ねる」と読む。

最後に、論理式(22)、(23)と(24)を連言で繋ぎ、特定疑問文の基本的な構造(25)の第三項に代入すると、例文(21)の論理構造が明らかになる。

(26))怎么' ₁[我, 你, 少' (ϕ , 两块)&有' {少' (ϕ , 两块), [原因]}&有'

尋ネル ~ガ~ニ ~ニツイテ

[[原因], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)]$]₁

この論理式は「私が、あなたに、 ϕ に二元が足りない、かつ ϕ に二元が足りないことに論理形式[原因]がある、かつその[原因]は[原因]の集合の要素であることについて尋ねる」と読む。

さて、次に方法を問う“怎么”を含む特定疑問文の論理構造を見てみよう。

4.2 方法を問う特定疑問文

(27) 那些要账的, 怎么打发呢? (邵敬敏 2014:112)

(あの借金取りたち、(追い払うには) どうすればいいの?)

ここで、“怎么打发呢?”を中心に議論することにする。前文で述べたように特定疑問文を作り出すため、まず、対応する平叙文の存在を確認する必要がある。例文(27)に含まれている平叙文を抽出すると、“打发那些要账的。”になる。この文は例文(27)の前提とも言える。そして、“打发那些要账的。”を論理式で表すと以下のようなになる。

(28) 打发’ (ϕ ⁵), 那些要账的)

追イ払ウ ～ガ ～ヲ

この論理式は「 ϕ が、借金取りを、追い払う」という意味を表す。

次に、“怎么”を導入することで特定疑問文、即ち、例文(27)が出来上がる。“怎么”は例文(27)の中で、“どのように”という意味で、“借金取りを追い払う”方法について尋ねている。しかし、論理的に考えると、その「方法」を問う前に、まず、「借金取りを追い払う」ため、何等かの方法があるという認識が質問者にあるはずである。つまり、「借金取りを追い払うために必ず何等かの[方法]がある」という認識は特定疑問文に反映されないが、暗示的に質問者の潜在意識の中にすでに存在しているということである。これを論理式で表すと、以下のようなになる。

(29) 有’ [打发’ (ϕ , 那些要账的), [方法]]

アル ～ニ ～ガ

論理式(29)は「 ϕ が借金取りを追い払うことに論理形式[方法]がある」と読む。

そして、その[方法]を明示的に表すため、“怎么”を導入する。論理式で表すと、以下のようになる。

(30) 有' [[方法], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}$] (ϕ)]
 アル ～ハ ～デ

論理式(30)は「その[方法]は[方法]の集合の要素である。」と読む。

ここで、“怎么”を導入することで特定疑問文が完成する。“怎么”は特定疑問文の中で、[方法]の集合を表すのみならず、「疑問」の意味も表している。一方、“怎么”は具体的な[方法]の集合であるため、その明確な方法を示せないからこそ、自分の“疑問”の意味を導き出すことができると考えてもよい。“怎么”の疑問の意味を論理式で表すと以下のようになる。

(31) 怎么' [我, 你, ～]
 尋ネル ～ガ ～ニ～ニツイテ

この論理式は「私が、あなたに、～について尋ねる」と読む。

最後に、論理式(28)、(29)と(30)を連言で繋ぎ、その連言で繋いだ複合命題を特定疑問文の基本的な論理構造(31)の第三項に代入すると、例文(27)の論理構造は以下のように書くことができる。

(32) 怎么' ₁[我, 你, 打发' (ϕ , 那些要账的)&有' {打发' (ϕ , 那些要账的), [方法]}&有' [[方法], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}$] (ϕ)]]₁
 尋ネル ～ガ ～ニ ～ニツイテ

この論理式は「私が、あなたに、 ϕ が借金取りを追い払う、かつ ϕ が借金取りを追い払うことに論理形式[方法]がある、かつその[方法]は[方法]

という形になる。

この論理式は「私が、あなたに、借金取りがあなたをいじめる、かつ借金取りがあなたをいじめることに論理形式[方式・方法]がある、かつその[方式・方法]は[方式・方法]の集合の要素であることについて尋ねる」と読む。

以上の分析から、[方式・方法]を問う特定疑問文の産出プロセスはまず対応する平叙文が存在し、次に疑問代詞“怎么”を代入することで特定疑問文が出来上がる、とまとめるだけでは特定疑問文の産出プロセスとしては十分ではないことがわかった。平叙文を特定疑問文に派生させる契機として、「動作・行為をするには必ず何らかの[方式・方法]が存在する」という潜在意識が存在していることが確認できたので、[方式・方法]を問う特定疑問文を産出するには三つのステップを必要となる。

まず、対応する平叙文が存在する。

次は、潜在意識が存在する。

最後に、疑問代詞“怎么”を導入することで特定疑問文が出来上がる。

念のため、もう一つ例を挙げておこう。

(39) 怎么解决这一问题呢？

(この問題をどうやって解決するの？)

(北京大学语料库 CCL)

この例文は「問題を解決する方法」について尋ねている文である。前述の[方式・方法]を問う特定疑問文の産出プロセスに従って、まず(39)に含まれている平叙文を抽出すると、“解决这一问题”になる。この平叙文を論理式で表すと以下のようなになる。

(40) 解决’ (φ, 这一问题)

解决スル～ガ ～ヲ

この論理式は「 ϕ がこの問題を解決する」と読む。

次に動作・行為をするには必ず何らかの[方式・方法]が存在するという潜在意識が存在する。論理式で表すと以下ようになる。

(41) 有' [解決' (ϕ , 問題), [方式・方法]]
 アル ~ニ ~ガ

論理式(41)は「 ϕ がこの問題を解決することに、論理形式[方式・方法]がある」と読む。

その[方法]を明示的に表すために、“怎么”を導入する。論理式で表すと以下ようになる。

(42) 有' [[方式・方法], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}$ (ϕ)]
 アル ~ハ ~デ

この論理式は「その[方式・方法]は[方式・方法]の集合の要素である」と読む。

“怎么”は特定疑問文の中で「疑問」の意味も表すので、論理式で表すと、以下ようになる。

(43) 怎么' (我, 你, ~)
 尋ネル ~ガ ~ニ ~ニツイテ

この論理式は「私が、あなたに、~について尋ねる」と読む。“我”は“質問者”を表し、“你”は“回答者”を表す。

最後に、論理式(40)、(41)、(42)を連言で繋ぎ、その複合命題に“怎么”を含む特定疑問文の基本的な論理構造を付与すると、例文(39)の意味を表す論理式は以下のように書くことができる。

(46) 有' (一个人, [性質])

モツ ～ガ ～ヲ

この論理式は「一人の人が論理形式[性質]を持つ」と読む。

そして、“怎么”を導入する。論理式で表すと以下のようである。

(47) 有' [[性質], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)]$

アル ～ハ ～デ

(47)の論理式は「その[性質]は[性質]の集合の要素である。」と読む。

尚、“怎么”を導入することによって、特定疑問文が完成され、「疑問」の意味も生み出す。“怎么”の「疑問」の意味を論理式で表すと、以下のよう書くことができる。

(48) 怎么' (我, 你, ～)

尋ネル ～ガ～ニ～ニツイテ

この論理式は「私があなたに～について尋ねる」と読む。論理式の中の“我”は質問者を表し、“你”は回答者のことを指している。

最後に、論理式(45)、(46)と(47)を連言で繋ぎ、論理式(48)、即ち、特定疑問文の基本的な構造を付与すると、例文(7)の文全体の論理構造が明らかになる。つまり、

(49) 怎么' $_1$ [我, 你, 是' (他, 一个人)&有' (一个人, [性質])&有' $_1$ [性

質], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)]_1$

この論理式は「私が、あなたに、彼は一人の人である、かつ一人の人が論理形式[性質]を持つ、かつその[性質]は[性質]の集合の要素であること

を尋ねる。」と読む。

もう一つの例を考えよう。

(50) 这是怎么(一)回事?

(これはどういうことですか?)

例文(50)の意味を詳しく記述すると、「このことはどういう状況で発生したか?」になる。つまり、例文(50)は状況について尋ねている。この文に含まれている平叙文を抽出すると、

“这是一回事。”になる。論理式で表すと以下のようになる。

(51) 是’ (这, 一回事)

アル ~ハ ~デ

この論理式は「これは、一回の出来事である」と読む。

次に、状況を聞くために、“怎么”を導入するが、“怎么”を導入する契機は何であろうか?一つの出来事が発生するには、必ず何らかの背景(状況)がある。例えば、子供たちが喧嘩したという出来事において、その背景(状況)としては、二人の子供が一つしかないおもちゃを同時に欲しがっている状況であったり、A子がB子のことが嫌いで、会うたびに喧嘩をした。今日も偶々会ったという状況で、また喧嘩したなど、考えきれない位の背景(状況)が存在しうる。これらの何らかの状況は特定疑問文に現れないが、質問者が持っている潜在意識としてすでに存在している。その潜在意識を明示化するため、疑問代詞“怎么”を導入することになったと考えられる。そしてその潜在意識を論理式で表すと以下のようになる。

(52) 有’ (一回事, [状況])

スル ~ニハ ~ガ

この論理式は「一回の出来事には、論理形式[状況]が存在する」と読む。

そして、前文で述べた暗示的な潜在意識を特定疑問文の中で明示的に表すため、“怎么”を導入することになる。これを論理式で表すと以下のようになる。

(53) 有' [[状況], $\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)]$

アル ~ハ ~デ

(53)の論理式は「その[状況]は[状況]の集合の要素である」と読む。

尚、“怎么”を導入することで、特定疑問文が出来上がるので、“怎么”は「疑問」の意味も持っていると考えられる。“怎么”の「疑問」の意味を論理式で表すと、以下のように表示することができる。

(54) 怎么' (我, 你, ~)

尋ネル ~ガ~ニ~ニツイテ

この論理式は「私が、あなたに、~について尋ねる」と読む。“我”は“質問者”を表し、“你”は回答者を表す。

最後に、論理式(51)、(52)と(53)の論理式を連言で繋ぎ、論理式(54)、即ち、特定疑問文の基本的な構造を付与すると、例文(50)の文全体の論理構造が明らかになる。

(55) 怎么' ₁[我, 你, 是' (这, 一回事)&有' (一回事, [状況])&有' [[状況],

尋ネル ~ガ~ニ

~ニツイテ

$\lambda x\{\text{怎么}'(x)\}(\phi)]$]₁

論理式(55)は「私が、あなたに、これは一回の出来事である、かつその一回の出来事がには論理形式[状況]がある、かつその[状況]は[状況]の集合の要素であることについて尋ねる」と読む。

以上の例文分析により、[性質・状況]を問う“怎么”を含む特定疑問文を産出するには、1で仮定したように、二つのステップだけでは十分ではないことがわかる。ステップ1の「対応する平叙文が存在すること」と、ステップ2の「“怎么”を導入すること」の間に、“怎么”を代入する契機として、質問者の潜在意識が存在していることが確認できる。

総じて、[性質・状況]を問う“怎么”を含む特定疑問文を産出するには以下のような三つのステップが必要とする。

まず、対応する平叙文が存在する。

次は、潜在意識が存在する。

最後に、“怎么”を導入することで特定疑問文が完成される。

5. 結び

本稿はまず、“怎么”を含む特定疑問文の産出プロセスを仮定し、その仮定を検証するために、“怎么”を含む特定疑問文を[方式・方法]を問う文、[原因・理由]を問う文と[性質・状況]を問う文に分けて、議論を進めることにした。その結果、仮定が不十分であることがわかった。その不十分な部分を補うために、用例分析を通じ“怎么”を含む特定疑問文の産出プロセスを以下のようにまとめることができた。

まず、対応する平叙文が存在することである。

次に、潜在意識が存在することである。

最後に、“怎么”を導入することで特定疑問文が出来上がる。

ステップ2の潜在意識について、[方式・方法]を問う文では質問者は動作・行為をするには必ず何等かの[方式・方法]を用いるという潜在意識をもつ。[原因・理由]を問う文では質問者は出来事が発生するには必ず何等かの[原因・理由]が存在するという潜在意識をもち、[性質・状況]を問う文では質問者は物事は必ず何等かの[性質](属性)を持っているという潜在意識と出来事が発生するには必ず何等か[状況]が存在するという潜在意識をもつと判断される。

また、疑問代詞“怎么”は特定疑問文の中で、[方式・方法]や[原因・理

由]、[性質・状況]の集合を表している。むしろ、“怎么”は特定疑問文の中で集合を表しているからこそ、自分の“疑問”の意味を導き出せたと考えてもよい。

注

- 1) 本稿は、“怎么”を含む特定疑問文を中心に議論することにする。
- 2) 論理式は命題論理、述語論理を用い、記号論理学の手法を自然言語の記述に応用したものである。命題論理は、命題(文)と命題(文)の関係を、& (連言)、∨ (選言)、→ (含意)などの結合子を用いて記述する。また、述語論理は、命題の内容(内部構造)を述語と述語が要求する項の組み合わせとして記述する。項の数により、1項述語、2項述語、3項述語のように呼ばれる。
- 3) 『論理哲学論考』(ウィトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳注:184)は論理形式について次のような注釈を与えている。

「ある対象の論理形式とはその対象がどのような事態のうちに現れるか、その論理的可能性の形式のことである。たとえばある対象aが赤い色をしていたとしよう。対象aにとって赤という色は外的性質であり、他の色をもつこともありえた。つまり、<aは青い><aは黄色い>などの事態も可能である。このことを「対象aは色という論理形式をもつ」と言う。また、対象aが論理的にはさまざまな色と結びつきうることから、対象aそれ自体は「無色」(二・〇二三二)と言われるのである。」

本稿では、“来’(你)&有’[来’(你),了]&有’[有’{来’(你),了},[原因]]”等の論理式では“有”が用いられるが、この場合には、上記の「論理形式」の概念に基づいて使用する。即ち、たとえば、

有’[有’{来’(你),了},[原因]]
 アル ~ニハ ~ガ

という論理式の意味は対象“有’{来’(你),了)”は“[原因]という論理形式をもつという意味を示している。

4) 論理式における括弧は“()”、“{ }”、“[]”、“₁[]₁”、を使用する。“()”が最も作用域が狭く、“₁[]₁”が最も作用域が広い。即ち、下記の a のように考える。

α. () < { } < [] < ₁[]₁

“₁[]₁”は “[]”より作用域が広く、“[]”は “{ }”より作用域が広く、“{ }”は “()”より作用域が広いことを表している。

5) “φ” (ファイ)は主語を省略表記する場合に用いることにする。φは命題を表す場合にも用いる。

参考文献

ウィトゲンシュタイン著、野矢茂樹訳 2003. 『論理哲学論考』。東京：岩波書店。

邵敬敏 2014. 『現代汉语疑问句研究』。北京：商務印書館。

杉本孝司 1998. 『意味論 1－形式意味論』。東京：くろしお出版。

朱德熙 1982. 『语法讲义』。北京：商务印书馆。

大东文化大学中国語大辞典编纂室 編 1999. 『現代漢日辞海』。北京：北京大学出版社。

呂叔湘主編 1999. 『現代漢語八百詞(增訂本)』。北京：商务印书馆。

松村文芳 2016. 神奈川大学大学院 外国語学研究科・中国言語文化専攻・博士後期課程・中国語学特殊研究Ⅲa\b 講義ノート。

Yuen Ren Chao 1968. 『A Grammar of Spoken Chinese』。Berkeley:University of California Press。

用例出典

[テレビドラマ]

林丛 2004. 《家有儿女・第一部》。北京中视美星国际文化传媒有限公司。

孔笙, 簡川詠 2016. 《欢乐颂》。东阳正午阳光影视有限公司。